

# 旬を食べる (カボチャ)

カンボジアから入ってきたため、この名前が付いたというカボチャ。種類は、日本カボチャ、西洋カボチャがあります。人気の中心は西洋カボチャで、消費の九割を占めています。

栄養素を見ると、青野菜と同じくらいカロチン・ビタミン類が豊富で、成人病やがん予防の強い味方です。また、保存が効くため、昔は青野菜の不足する冬場まで食べられていました。冬至に食べる習慣があります。昔からの生活の知恵といえるでしょう。

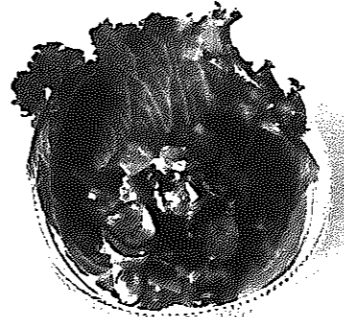
見分け方は、へたの茎が枯れ、はつきりした縞模様で重量感のある硬いものを選んでください。カットしてあるものは色を見て選んでください。果肉の赤みが濃いものほど、ほくほくして甘味があります。

食べ方は、日本カボチャは加熱するとねっとりするため、煮物に向きます。西洋カボチャは天ぷら、炒めもののほか、スープ、プリンなどデザート類にも向いています。今回はカボチャを使ったサラダをご紹介します。カレー風味で、食欲のわかない夏場でもおいしく召し上がれます。ぜひお試しください。

## カボチャのサラダ

栄養価(1人分当り)	
エネルギー	172cal
タンパク質	3.9g
脂 肪 分	10.0g
塩 分	0.6g

メモ  
・クルミまたはスライスアーモンドを散らすとアクセントになります。



材料(4人分)  
 カボチャ: 300g キュウリ: 1本  
 玉ねぎ: 30g ロースハム: 3枚  
 レーズン: 大さじ2  
 レタス: 適量 カレーマヨネーズ: マヨネーズ: 大さじ3  
 牛乳: 大さじ1 カレー粉: 小さじ1/4  
 塩・こしょう: 少々

作り方  
 ①カボチャは種を取って皮をむき、2センチ角に切る。ひたひたの水を加え、柔らかくゆでる。  
 ②キュウリは小口切りにし、塩少々で揉んで、水気を絞る。玉ねぎはみじん切りにし、水にさらし、水気を絞る。ハムは1センチ角切りにし、レーズンはぬるま湯で洗い、水気を切る。  
 ③ボールにカボチャ、キュウリ、玉ねぎ、ハム、レーズンを入れ、カレーマヨネーズを加え、粘りが出ないようにざっくりと混ぜる。  
 ④器にレタスを敷き、カボチャサラダを盛る。

## 市政知識 ⑤

# 議会の役割と権限

今回は議会のあらましをご紹介します。今回は引き続き議会について、その役割と権限をご紹介します。

市議会の役割は、地域の問題について、市民に代わって論議し、ものごとを決定することです。つまり、市民の立場から市当局を批判・監視し、また、市民のための各種サービスについて、具体的な提案をすることです。

す。市政に対する批判・監視や提案については、本会議における質問、質疑や委員会での審査、調査などの活動を通じて行います。これらは、多数の議員の目で、それぞれ違う立場から行うため、極めて有効です。

また、議会には、法律によって多くの権限が与えられています。主なものは次のとおりです。

①議決 条例の制定・改正・廃止、予算の決定、決算の認定、主要な契約など市政の重要な事項について議決します。

②選挙 議長・副議長などの選挙を行います。

③同意 助役、収入役、教育委員など市の重要な役職に就く人を市長が選任する際には、議会の同意が必要です。

④調査 市の仕事について調査し、必要な場合には参考人を呼んで意見を聞いたり、関係資料の提出などを求めることができます。

⑤請願・陳情の審査 請願・陳情を審査して、市民の声を市政に反映させます。

⑥意見書 公益に関することについて、市議会の意見を国や県などの行政機関に対し、意見書として提出します。

⑦決議 政治的な効果を期待して、市議会の意思を外に明らかにするものです。

議会は以上のような権限を持つていて、議決機関または意思決定機関と呼ばれています。市長は、市議会で決定したことを基に、仕事を進めていくので、執行機関といえます。議員は、市民の代表としての立場から執行機関に疑問や意見を出し、行政が適正に運営されるよう努めます。行政内容も年々高度化・複雑化してきており、市民感覚を持ち合わせながらも、ある程度の専門的な見識も必要とされます。



## 雷どうじん

(福岡県北九州市)

いささかマンガチックな絵ですが、昭和初期に発行された『豊前玩具誌』によると、小倉や下関では「素人描きの稚拙なところに妙味があった」と記されており、こんな絵が好まれたのかもしれない。

「どうじん」の名前の由来は、小倉藩の医師道順が作り、転じてどうじんになったとか、風作りの名人の占いがいて、道人博士と称したことだからとか、さまざまの説があります。そのほかにも唐人風からきているというものもあって、ますますややくしくなってくるのです。これは、唐人の国すなわち異国から渡来したことに由来します。

この風は、竹骨を曲げて骨を組んであります。西日本一帯は、このように細工を施した風が多く見られます。四角か六角の風しかなじみのない私たちには「作るのがしんどいなあ」と思いますが、アイデア次第では、新しい風が作られる余地も多分にあります。

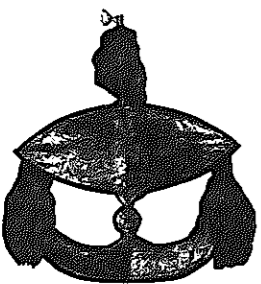
## 月の風

(マレーシア)

マレー半島特有の風で、ワオブランといいますが、日本流に「月の風」と呼んでいます。なぜそういう名前が付けられたかといえますと、風の上部は半月、真ん中の小さな円形は満月、下部は、三日月を表しているからです。「満月が小さすぎるぞ」なんていうのは野暮というものです。

風は、ブルーの紙をベースに張り、その上に模様を紺や緑、赤や金色などの紙に切り込んで、重ね合わせて、いわゆる風絵を作り上げます。

マレーシアは、風の大好きな南国柄で、風がコインにデザインされています。また、マレーシア航空のシンボルマークも空に揚がったワオブランです。日本の航空会社もジャンボに風の絵を描き、世界の各都市を飛び回ってくれたら、どんなにか粋なことでしょう。



## 風博士

## あなたも

文・田村和雄 (しろね大風と歴史の館運営委員会委員長)